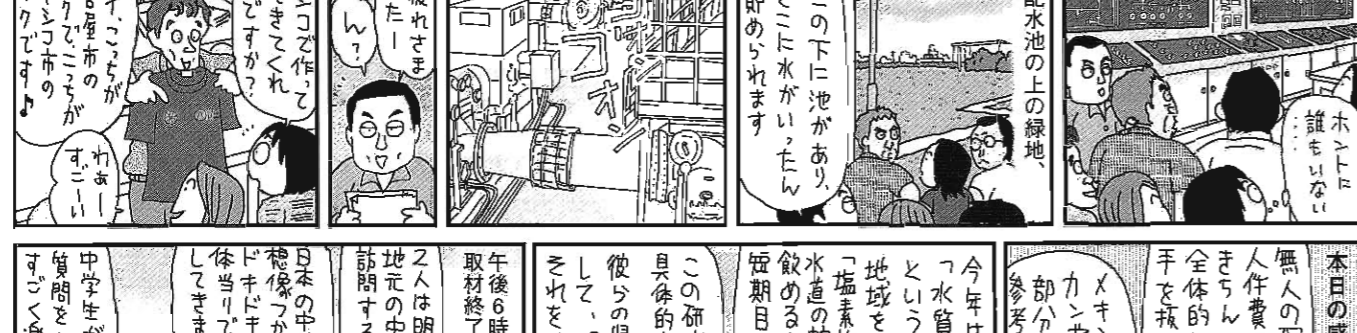
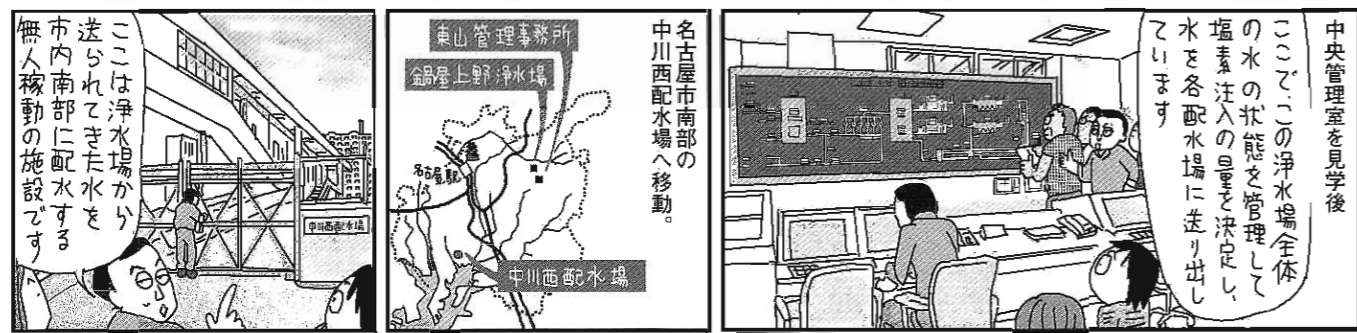


●JICA国内研修ゲンパ訪問記 VOL.26 水道における水質管理 @ 名古屋編
OJAMA-SHIMASU たけだみこ



9月×日 午前10時、浄水場へ来て初めて来た名古屋市の鍋屋上野浄水場に到着。
 会議室ですべてに講義が始まりました。
 名古屋水道の研修管理員 村上さん
 研修管理員 村上さん
 カルロスさん
 どうぞ
 オスカルさん

残留塩素の測定方法の説明を受け、隣の方法室に移動。
 試薬を使って正確な残留塩素値を測定し、計器の数値を修正するところを見たり、計器の使い方や選び方など具体的なアドバイス聞きながら、最新のデジタル式のアプローチがあるけど、長一短としてねえ、あ、この機種は故障がなくていいです。

浄水処理工程を見て回った後、こんな蛇口がいろいろある。塩素を注入した直後の水が、ろ過した後の水で、いろいろな段階の水がここの集合しています。毎日採水して計器をチェックしてあります。塩素は揮発するため、その必要量は日照時間や季節、配水距離などによって変わるので、それらを考慮しての調整が必要。などの話を聞いて、名古屋の場合には、浄水場から末端の蛇口まで最長4日かかるので、4日先を讀んでの調整が必要。午前の研修は終了。

再び会議室で水の流れと塩素量のコントロールの仕方の講義。
 名古屋の場合には、浄水場から末端の蛇口まで最長4日かかるので、4日先を讀んでの調整が必要。午前の研修は終了。

今回紹介する研修は、メキシコ市を対象に名古屋市上下水道局とJICA中部が連携して行っている草の根技術協力事業「水道における水質管理」。
 メキシコ市では、地形的な要因や都市化により、水源の細菌汚染や、井戸の鉄分・マンガン濃度の上昇や塩水化などの水質悪化が進んでいる。また、塩素消費が不安定で、衛生的な水道水が供給されないこともある。これらの問題を解決し、蛇口から安全な飲料水を市民に供給するためには、水源・浄水場・市内給水栓などにおける適切な水質管理が不可欠だ。同時に、水質に問題が発生した場合に、水質分析の手法からその原因を究明し、解決策を見いだすことも市民の健康を守るために求められる。「水道における水質管理」では、名古屋市上下水道局が有する水質管理技術者、姉妹都市であるメキシコ市の水道技術者に移転し、水道水質の保全を図ることが目的だ。2004年に始まり、名古屋市の専門家を現地に派遣したり、メキシコ市から研修員を受け入れている。最終年の今年、メキシコ市水道局の技術部長カルロスさんとプロジェクト主任のオスカルさんが来日。約1カ月の研修を通じ、過去2年間の集大成としての水質管理技術の定着を目指す。

たけだみこ 漫画家。4コマ、ショート、料理漫画を中心に活動中。著書に「セシジョンの食卓」「異国のメシー」【クッキング カンタン】「キッチン」など。http://majop.com/Neji/